

# ヘルス・サイクロジスト

Health Psychologist

No.57 2012年 4月

## アングル

### 新しい風を学会に

——理事長(代表理事)就任にあたって

岡山大学名誉教授 相談役 田中宏二



このたび、3月4日に開催された日本健康心理学会代議員(社員)総会にて理事に、引き続き理事会において理事長(代表理事)に選出され、同日就任いたしました(任期・平成24年3月―平成25年6月)。就任にあたり、新理事長としての抱負を述べたいと思います。

まず簡単に自己紹介をしますと、私は社会心理学分野から健康心理学に関心を抱いた人間です。医学部(教養・基礎)勤務時代に、社会心理学の知見・研究法を健康や疾病予防に適用できないかと考え、1980年代後半にソーシャルサポートのストレス緩和効果の実験研究を始めたのがきっかけでした。以後、ストレスと健康の関連研究、支援介入研究などを行いました。最近は大学運営にかかわり研究から遠ざかっておりま

携わることになった次第です。さて、1978年にアメリカ心理学会に健康心理学部会(第38部会)が設置され、わが国では10年後の1988年に日本健康心理学会が創立され、本年はちょうど25周年の節目となります(2012年3月現在の会員数は2654名)。本年9月に東京家政大学で開催される第25回大会の統一テーマに「これからの健康心理学」を掲げ、今後の健康心理学の将来を見据えることは、まさに時宜を得たものだと思います。私は立場を変え、法人組織の代表者として、これからの「健康心理学会」のあり方について、将来に向けてのビジョンづくりとその実現に努力したいと思っております。

まずは、以下に挙げるような現状の課題を直視し、改善・改革への一歩を進めるつもりです。会員の皆様とともに、学会に新しい風を吹き込むために、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

I 健康心理学の学問的発展を促進する

1 研究活動の活性化

- ・ 研究大会の発表件数の向上
- ・ 会員の自主的な研究グループ

の推進と支援

- ・ 隣接領域との共同研究の推進
- 2 学会誌『健康心理学研究』の魅力・評価を高める

- ・ 審査制度の改善(電子化による審査のスピードアップ、審査過程の見える化など)
- ・ 学会誌への投稿数の増加と質向上を図る

- ・ 基礎・応用研究と実践研究の好循環を促す論文掲載、特に実践研究の啓発

II 開かれた学会運営を目指す

- 1 理事執行体制の実質化、活性化
- 2 公明な事務局体制
- 3 会員とのコミュニケーション活動の充実(HIPの充実、電子メールニュースなど)

III 健康心理士実践活動の支援、資格向上

- 1 健康心理士の実践的な技術向上を図る。養成、試験、研修プログラムの見直し
- 2 医療・保健領域など実践的組織との連携を行い実践力の育成
- 3 国家資格化など資格の認知度を高め、専門的職域拡充を支援

IV 学会の国際活動の活性化

- 1 海外(特にアジア)の健康心理学会との交流促進
- 2 若手研究者の国際研究集会への派遣支援